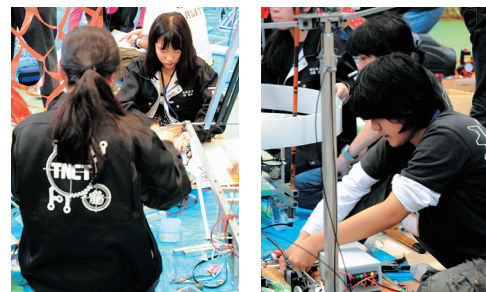


高専ロボコン2011

機械工学科准教授 増山 知也

高専と言えばロボコン、ロボコンと言えば高専。アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト。本誌をご覧の皆様には既におなじみのことと存じます。念のためにおさらいしておきますと、
 ○コンテストの課題が毎年変わる。
 ○課題を達成するためのロボットを、高専生自ら設計製作する。
 ○ロボットによる対戦で勝敗を決する。
 ○地区予選を経て、両国国技館で全国大会が行われる。
 という概要で、技術力をアピールする高専にとって、まさに最大で最高のイベントと言うことができます。



今年は女子部員も活躍しました

鶴岡高専ロボコンチームは、一昨年、昨年と2年連続で全国大会へ駒を進め、特に昨年は国技館を笑いとバナナの香りで満たして特別賞までいただきました。

その全国大会経験メンバーもほとんどが就職、進学し、一気に若返った今年のロボコンチーム。挑む課題は「ロボ・ボウル」。2足歩行のオフenseロボットめがけて、学生がアメフトボールをパスします。ボールを受けたロボットは、相手チームのディフェンスロボットをかいくぐり、エンドゾーンで待つ学生にノーバウンドでタッチダウン



鶴岡高専Aチーム
 ロボット名：黒船と侍
 選手：足達龍輝・小林侑太・石向賢多
 ビットクルー：難波周斗・澤 郁恵・佐藤正海
 豊岡 諭・平瀬隼人

ンパスを送ります。2チームが先攻、後攻入れ替わって対戦し、タッチダウンまでのタイムが短い方の勝利となります。

従来のロボコンでは、人間はロボットを操縦するという役割のみでしたが、今年は人間とロボットが協働して競技を行う、これまでにない課題となりました。

鶴岡高専Aチームでは、歩行のための脚機構を簡単にし、そのかわりフィールドの端から端までボールを投げることでできる大きな弓を備えたロボットを製作しました。一方Bチームでは、下手投げによるボールパスを実現しようとし、ボールの飛距離が期待できない分、自在に歩き回ることのできる脚としました。

競技で用いるアメフトボールは400gも重量があります。これを受け止め、投げるためにはどうしてもロボットが大型化してしまいます。しかし、ロボットには競技規定の寸法制限、重量制限がありますから、制約の範囲内で目標とする歩行性能、投擲性能を發揮するのに苦労しました。

10月16日、八戸高専で開催された高専ロボコン東北大会では、突然の通信トラブルや部品の破損にも見舞われ、Aチーム、Bチームとも満足な結果を残すことができずに終わってしまいました。若いチームにとっては、苦く、辛い結果でありましたが、来年度以降へのバネとして再起を図ってまいります。



鶴岡高専Bチーム
 ロボット名：下投げ野郎Bチーム(アンダースロウビーチーム)
 選手：佐藤健太・今田久大・高橋宗一郎
 ビットクルー：宮崎直希・成田洸杜・石井裕也
 工藤 寛・鈴木沙英



テレビカメラに向かってロボットの説明

今年度あらたに編入した留学生の皆さんの声

マレーシア



機械工学科3年 イズル
 機械工学科3年 タウフィック
 電気電子工学科3年 クタイバ

最初日本に来たとき、鶴岡に対していろいろなイメージがありました。どんなところかな、友達ができるかなと心配でした。しかし、鶴岡に来て、これまでの鶴岡に対してのイメージと違いました。先輩からは、田んぼしかないと言われていました。でも、鶴岡は田んぼばかりがあるわけではなく、いろいろおもしろい所があります。

例えば、鶴岡公園です。春には、きれいな桜が咲いて、いろいろな祭りも行われます。この公園は、私たちのこれまでの人生の中で一番きれいな所だと思いました。私たちにとって鶴岡は、ただの田舎ではない、本当におもしろいところだと思います。

日本の生活では、日本語で話さなくていけないし、料理も自分でしなければいけません。面倒に思うときもありましたが、だんだん慣れてきました。時間を守ることや勉強の仕方を学びました。友達もたくさんできて、いろいろなことを学びました。例えば、山形の方言です。方言は、とてもおもしろいと思いました。

鶴岡高専で生活して、いろいろな経験をしました。日本人と一緒に生活して、最初はびっくりする場面がたくさんありました。生活に慣れないうちは、苦しく思うときもありました。でも、日本の季節にも慣れて、たくさん日本人の友達を作って、日本語も少しずつ上手になってきて、よかったです。

鶴岡高専では、いろいろな部活があって、みんなが毎日一生懸命に練習しているので、意志がとても強いと思います。私たちもこの強い意志を持って、日本の生活を頑張っ



鶴岡公園の満開の桜の下で

モンゴル



制御情報工学科3年 ビヤムバ

鶴岡に来たばかりの時は寂しく感じていましたが、だんだん生活が楽しくなってきました。私は寮での生活が一番難しいと思い、不安でした。しかし、寮の事務の人たちが親切にしてくれたお陰で、寮生活を快適に過ごすことができるようになりました。4月に入学したときは、クラスメートとのコミュニケーションが互いに難しかったですが、今では楽しく話かできています。クラスには楽しい仲間がたくさんいるので、授業中でも退屈していません。

留学生の特別日本語授業では、他の授業とは異なり、齋藤先生とお祭りや地域のイベントに参加して日本の文化や鶴岡の自然と触れ合うことができました。特に、砂丘をウォーキングして眺めた日本海は大変美しかったです。先生には大変感謝しています。



休み時間のクラスで



齋藤みる先生と留学生のアリフ君とのウォーキング

インドネシア



物質工学科3年 アリフ

僕は、インドネシアから来た留学生アリフと言います。3年の物質工学科で勉強しています。今年の4月に鶴岡高専に来て6ヶ月勉強していますが、色々な楽しいイベントを経験しました。例えば校内体育大会です。校内体育大会では、僕はバスケの試合に参加しました。僕はバスケがすごく下手で、校内体育大会に出るために何回も練習しました。この練習のおかげで、バスケのことが少し分かるようになりました。それだけではなく、校内体育大会の練習では僕が同級生たちと話す機会が多くなって、すごく楽しかったです。その結果、僕達たちのクラスはソフトボールで優勝しました。僕が参加したバスケは優勝ではなかったけど、本当に校内体育大会が楽しかったです。また来年、もっと頑張っ



ソフトボールの決勝試合で1位になって、みんな笑顔